

# 重伝建指定を目指して歴史的街並みを照らす竹あかり

代表者 藤谷 円花 (経済学部経済学科2年)

## 1. 目的と概要

本事業は、多度津町の歴史的建造物が立ち並ぶ旧本町筋に竹あかりを展示することを通して、旧本町筋が重要伝統的建造物保存地区に選定され、町の活性化へとつなげることを目的としている。また、毎月のイベントへの参加や様々なイベントを通して、多度津町民だけでなく、より多くの方々に私たち香川大学たどつまちLaboを認知してもらうことを目的としている。

多度津町では、現在、国が選定する重要伝統的建造物群保存地区に、「多度津町本町」地区が選定されることを目指して取り組みを推進している。その取り組みを支援するために、2023年4月22日より、多度津町民が中心となって「第4土曜は！本町デー」という地域イベントが開催されている。このイベントは、その開催を通じて地域の機運を醸成し、地域住民とともに、町の活性化を図ることおよび町内外へ潜在的な魅力を発信することで重伝建の認定に向けて後押しすることが目的である。

私たちは多度津町でプロジェクト活動を行うなかで、多度津町旧本町筋の街並みは歴史を身近に感じられる趣のある場所だと実感している。この旧本町筋の街並みを守る活動が行われると知り、多度津町や地域住民団体から活動への参画を要請されたこともあって、私たちとしてもぜひ関わりたいという思いに至った。そこで、旧本町筋は歴史的建造物が立ち並ぶレトロな雰囲気であり、竹あかりの光で通りを照らすことで、より魅力を引き立たせることができるのではないかと考えた。このような動機により、重伝建選定に向けた地域イベント「第4土曜は！本町デー」のなかで竹あかりを展示することで、プロジェクトとして、また香川大学として貢献したいと感じ、2023年5月から竹あかりの展示を実施してきた。

今年度も、引き続き、この地域イベントに参加することで、多度津町旧本町筋の伝統的建造物群の保存や多度津町の活性化に貢献したいと考えた。さらに、昨年度は竹あかりの展示とワークショップで出店するという立場でこの地域イベントに関わったが、今年はスタッフとしてもイベント運営にも積極的に関り、より多度津町旧本町筋の重伝建選定を後押ししたいと考えた。

活動期間である2024年7月から2025年3月までの毎月第4土曜日に、多度津町旧本町筋にて竹あかりの展示を行い、竹あかりづくりワークショップも行った。竹あかりのワークショップは、事前に多度津町にある放置竹林において、竹を伐採して節ごとに切断しておき、参加者にその竹にドリルで穴をあけてもらうという内容である。また、毎月第2木曜日に行われる事前ミーティングにもスタッフとして参加し、多度津町旧本町

筋の重伝建選定を後押しするため、イベント運営にも積極的に関わってきた。

この地域イベントを通して、結果として多度津のまちの賑わい創出や、地域住民に多度津のまち並みに愛着を持ってもらうことで、重伝建選定を推進することに繋がり、また、重伝建に選定された際には、町内外から多度津町を訪れてもらうということが期待できる。

本事業を行うことの意義としては、活動を通じて地域住民同士や、地域住民と私たち大学生のコミュニケーションの機会を創出することができるということ、また、竹あかりにより多度津のまち並みをより一層魅力のあるものにすることである。さらに、SNSを通してその様子を町内外に発信することで、多くの人々に多度津町を訪れてもらうことができると考えている。

## 2. 実施期間（実施日）

令和6年7月1日から令和7年3月31日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、毎月第4土曜日に多度津町旧本町筋で開催される「第4土曜は！本町デー」という地域イベントにスタッフとして参画し、竹あかりの展示ならびに季節ごとのワークショップを開催した。また、毎月のイベント開催にともない、現地の運営組織による事前ミーティングにも参加した。

### (1) 竹あかり展示

毎月のイベント開催時に、旧本町筋のスペースをお借りして、事前にメンバーが制作した竹あかりのオブジェ百数十本を展示した。本町デーというイベントにおける彩りや華やかさを生み出すという点で、イベントや旧本町筋の賑わいづくりに寄与することができた。展示の際に、担当メンバー間で構図の意見の出し合いや役割分担をすることを通じて組織内での協調性と積極性が生まれた。



## (2) 竹あかりワークショップ

前述の竹あかり展示と同様に、毎月の本町デーにおいて、イベント来場者に竹あかりを制作するワークショップを開催した。竹の選定からデザインの考案、ドリルの使い方や穴開け、仕上げのヤスリがけなど一連の工程を私たちが補助して実施した。このワークショップでは、多度津町内のみならず近隣市町村の住民や、ファミリー層を中心に多様な世代に参加していただき、様々な来場者との交流が生まれた。



## (3) 本町デーミーティング

本町デー開催に向けて、毎月第2木曜日にイベントを運営する地域住民の方々とのミーティングに出席した。ここでは前月に行われたイベントについての改善意見の交換や当月の開催に向けた話し合いを行った。このなかで地域の方々と関わる機会が増え、私たちのコミュニケーション能力や積極性を向上することができた。

## 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を通じて、地域住民と交流を持ち、関係を築きながら、事業を実施したことで、「地域に根差した学生中心の大学」という香川大学の理念を地域社会に知っていただけた。また、地域活性化に興味を持った行動力のある学生が多く在籍している大学というイメージを地域住民に持っていただくことができた。さらに、地域と大学の交流を深めることにもつながった。

地域社会については、イベントに参加し、展示やワークショップを行うなかで、地域住民同士や、地域住民と大学生とのコミュニケーションの場となり、人々のつながりを生み出すことができた。また、旧本町筋に竹あかりを展示することで、伝統的なまち並みという地域の魅力をより際立たせ、活気を作り出すことにつながった。さらに、多度津町の未来について考えるワークショップに招いていただき、多度津町役場の担当者やまちづくりについて考えることができた。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクト事業を通じて、学外の方々ややり取りする機会が多かったことから、社会人として必要なマナーの学習の機会になった。また、展示やワークショップを行うなかで、子供から大人、高齢者まで幅広い年代の方々との関わりが増え、社交性やコミュニケーション能力が身につくようになり、積極的に行動できるようになった。さらに、イベント

に何度も参加するなかで、私たちの多度津町への愛着が強くなり、地域活性化への思いが強くなった。多度津町の伝統的なまち並みの魅力に触れたことで、他の地域のまち並みにも興味を持ち、それぞれの地域が行うまちづくりについても関心を向けるきっかけとなった。

竹あかりの展示の仕方やワークショップで用いるデザインを改善していくなかで、私たちの課題解決能力が育まれた。メンバー同士で案を出し合い、より良い案になるよう検討し決定するプロセスはディスカッションの機会になり、協調性や団結力が生まれ、とても有意義であった。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

竹あかりワークショップを実施するなかで、以下の良かった点や反省点があった。

昨年度の反省を生かし、難易度の低い型紙を用意することで、小さなお子様でも簡単に作業が進めることができるようになった。

一方、一度参加するとリピートして来られる方が少なく、年度末にかけて参加してくださる方が減少してしまった。今後はマンネリ化を防ぐため、型紙の種類を豊富にすることなどはもちろん、竹あかりワークショップ以外での本町への集客が行える工夫が必要である。

この活動を通して、メンバー自身も多度津町のまち並みの魅力を再確認できる機会になったが、今年度は多度津町旧本町筋が重要伝統的建造物群保存地区に選定されることは叶わなかったが、来年度は選定されるよう活動していきたい。また、瀬戸内国際芸術祭が開催されることも視野に入れ、竹あかりだけでなく他の活動にも取り組んでいきたい。

## 7. 実施メンバー

|        |            |                   |
|--------|------------|-------------------|
| 代表者    | 藤谷 円花      | (経済学部 2年)         |
| 構成員    | 石村 英理      | (経済学部 4年)         |
|        | 田中 音羽      | (経済学部 4年)         |
| 久米井 美子 | (経済学部 4年)  | 石原 優希 (経済学部 4年)   |
|        | 松本 奈珠      | (経済学部 3年)         |
| 赤川 颯   | (経済学部 2年)  | 小笠原 史織 (経済学部 4年)  |
|        | 玉置 渉       | (農学部 2年)          |
| 三好 真路  | (経済学部 2年)  | 入口 莉帆 (経済学部 3年)   |
|        | 古川 華       | (経済学部 2年)         |
| 藤田 倫太郎 | (経済学部 2年)  | 石井 心 (経済学部 3年)    |
|        | 藤田 源紀      | (農学部 2年)          |
| 八杉 陽奈  | (経済学部 2年)  | 齋藤 美喜 (経済学部 2年)   |
|        | 浅野 仁美      | (経済学部 1年)         |
| 塩谷 眞滉  | (経済学部 1年)  | 山本 凌平 (法学部 2年)    |
|        | 米本 愛袈      | (経済学部 1年)         |
| 徳田 蒼大  | (創造工学部 1年) | 坂本 椋野 (農学部 2年)    |
|        | 中谷 美佑      | (創造工学部 1年)        |
| 加賀田 ハル | (農学部 1年)   | 田中 裕久 (法学部 2年)    |
|        | 上野 葉月      | (教育学部 1年)         |
| 山中 匠青  | (法学部 1年)   | 宮下 翔伍 (創造工学部 2年)  |
|        |            | 宮川 由梨乃 (経済学部 2年)  |
|        |            | 伊藤 太樹 (経済学部 1年)   |
|        |            | 桧垣 美佑 (経済学部 1年)   |
|        |            | 鈴木 雅紀 (創造工学部 1年)  |
|        |            | 栗原 健 (創造工学部 1年)   |
|        |            | 堀川 史珠葉 (創造工学部 1年) |
|        |            | 加藤 沙織 (農学部 1年)    |
|        |            | 田中 こひな (教育学部 1年)  |

## 8. 執行経費内訳書

| 配分予算額         |     | 195,018円 |         |  |
|---------------|-----|----------|---------|--|
| 執行経費(品目等)     | 数量  | 単価(円)    | 金額(円)   | 備考   |
| 交通費           |     |          | 46,500  | 8/3,8/4,9/2<br>8,10/10,11/<br>3,12/7,1/12<br>,1/25 |
| 物品(マット)       | 5   | 1,760    | 8,800   |  |
| 物品(ボタン電池)     | 250 | 129.6    | 32,400  |  |
| 物品(インクカートリッジ) | 1   | 3,600    | 3,600   |  |
| 物品(LEDライト)    | 416 | 36       | 14,988  |  |
| 合計            |     |          | 106,288 |  |